

# UDトラックス株式会社 上尾工場

所在地 埼玉県上尾市  
雇用障害者 肢体不自由者／聴覚障害者



## 「見える化」により誰でも作業できる環境

### 事業所の概要

UDトラックス株式会社上尾工場は、大型から小型までのトラックの組立、及びトラック、バス、産業用のディーゼルエンジンの製造を行っています。社員数は約2,830名です。

障害者雇用は、約30年前に聴覚障害者を受け入れたことが始まりです。製造技能職として、聴覚障害者を中心に雇用しています。

日頃より、近隣のろう学校と連携を取りながら、工場見学やインターンシップ制度（1～2週間程度の職場実習）を活用し、雇用の促進に努めています。

### 障害者雇用の取り組み

#### 社内への啓発

内定者が出た段階で受け入れ部署に周知し、職務等について協議を行っています。障害の有無にかかわらず、新入社員については社内報で紹介しています。

#### 職務の開発や調整

障害特性に配慮はしますが、基本的には健常者と同じ職務に従事してもらうことを方針としています。雇用後に障害者となった社員に対しては、障害状況に応じて受け入れ可能な職場を検討しています。

#### 雇用管理上の配慮・工夫

初めて聴覚障害者を雇用した際は、社内を手話講習を行いました。その後、個人的に手話の勉強を続けた社員もいます。今では、手話の勉強をした社員が、職場内の集会



大中型エンジン組立ラインでリリーフとして活躍する中島進さん

や研修の際に、コミュニケーションの補佐をすることもあります。

また、事業所の方針等全従業員に説明が必要な内容は、「全員集会」で案内します。聴覚障害者には、事前に資料を作成し情報を確実に提供しています。

製造現場では、作業ミスや欠陥を防ぐために問題点が常に見えるよう「見える化」、作業の標準化、作業指示システム化等による「誰でも化」に取り組んでいます。具体的には、写真を用いた標準作業書の整備や必要な部品をランプで知らせたり、組立方法を画面で表示する等、視覚的に訴える改善を行っています。これらは、障害の有無にかかわらず全社員にとってわかりやすいものとなっています。

職場で相談したいことがある場合には、直接上司と筆談等を通じて、日常からコミュニケーションを図っています。



組立作業においてどの工具を使用すればよいか、ランプで知らせる



組み立てる箇所がディスプレイに図示されるとともに、必要な部品のランプが点灯する

### 雇用事例

#### Case1: 中島進さん

40代半ば、勤続26年の中島さん。PT製造部機関課に所属し、大中型エンジン組立ラインのリリーフ（ライン全体を見渡し、不具合が生じた時に各工程のヘルプに入る）に従事しています。

中島さんは聴覚障害1級。ろう学校卒業後に入社しました。口の動きを読み取る口話と筆談でコミュニケーションを取りながら、仕事を進めています。中島さんはこれまでの経験を活かし、技能検定「内燃機関組立」の1級試験を受験し、見事に合格しました。受験に当たっては、実技・学科ともに上司を含めた職場の同僚が、わかりやすい教育を実施しました。

また、平成21年には優秀勤労障害者として埼玉県知事表彰を受けました。職場の同僚も誇りに思っているとのこと。



### 職場インタビュー

PT製造部機関課課長 深田武士さん(中央)、  
同課係長 久田幸男さん(左)、同課係長 根岸好行さん(右)



聴覚障害者に対しては、コミュニケーションに関する配慮を行っています。それ以外は健常者と同様に接しています。同僚として分け隔てなく接していく中で気心が知れ、一層、コミュニケーションがうまくいくと思います。当社の聴覚障害者は職場になくてはならない戦力となっています。

現在QCサークル\*活動に積極的に取り組んでいますが、聴覚障害者も自由に意見が出せるような環境を作り出したいと思っています。

#### 中島進さん(聴覚障害)

お客様が満足を得られるように決められた標準作業を指導していきます。不具合情報をチーム全員で理解、共有し、再発防止策に素早く取り組みます。

技能検定試験では、学科の勉強が大変でしたが、1級に合格することができ、仕事への自信につながりました。

#### \*QCサークルとは

QC(Quality Control)は「品質管理」を意味する。品質改善のために継続的に活動する少人数チームのことをQCサークルという。